



“F.P.M.S.” 2018 展示風景（部分）

額田 宣彦 Nobuhiko Nukata “F.P.M.S.”

2018年2月25日(日)～3月25日(日)

レセプション：2月25日(日) 15:00 - 17:00

この度ハギワラプロジェクトでは、2月25日(日)より、額田宣彦の個展“F.P.M.S.”を開催いたします。

額田は1990年代半ばより、ジャングルジムのような格子を描くスタイルを形成し、現在は白い下地が均一に塗られた麻布の目に沿って絵の具を塗っていくというシステムティックな方法に辿り着きました。

今回発表するのは、「日本サイズ」の規格として販売されている既製品の木枠「F (Figure/人物)」、「P (Paysage/風景)」、「M (Marine/海景)」を使用し、左下と右上の角を起点として麻布の目に沿って斜めに線を描くシリーズです。木枠のサイズと比率によって線の位置が決まるため、支持体のサイズを選んだ時点で作品の全体像も決まります。今回の展示では、F.P.M.の3点セットが壁を覆うように展示されます。幅が微妙に異なる2本の斜線が反復される空間は、何かの物語性を持つように見える反面、空虚なイメージを淡々と発光しながら私たちの生活をとりまくディスプレイ画面のようにも見え、一義的な意味に還元されることを拒みます。

必然と偶然が重なって描かれた作品は、個々やインスタレーション全体を見ていくうちに鑑賞者に様々な示唆を与えます。恣意性を排除してどのように豊かな絵画が生まれるか、という額田の象徴的なアプローチの作品です。画面にかすかに残る作家の身体性を捉えるとき、観る人は心の奥底にある普遍的な美や感性の揺らぎを感じます。

今展覧会に合わせ、鈴木俊晴氏(豊田市美術館学芸員)に寄せていただいた論稿を含むリーフレットを刊行しました。こちらも併せてご覧頂けたら幸いです。

額田宣彦 “F.P.M.S.”

テキスト： 鈴木俊晴(豊田市美術館学芸員)論考 / 額田宣彦インタビュー

18.2 x 24.5 cm 20page フルカラー 価格：¥900.-

[作家略歴]

額田 宣彦 (ぬかた のぶひこ) 1963年大阪府生まれ、愛知県在住。1990年愛知県立芸術大学大学院美術研究科油画専攻修了。主な展覧会に、「蜘蛛の糸」豊田市美術館(2016、愛知)、「GROUND2」武蔵野美術大学美術館(2016、東京)、「GROUND」愛知県立芸術大学サテライトギャラリー(2014、愛知)、「MOTコレクション特別企画 クロニクル1995-」東京都現代美術館(2014、東京)、「寺田コレクションの若手作家たち」東京オペラシティアートギャラリー(2011、東京)、「暗順応」ギャラリー東京ユマニテ(2010、東京)、「放課後の原っぱ—櫃田伸也とその教え子たち—」愛知県美術館、名古屋市美術館(2009、愛知)、「キュレーターの視点—〈点〉と〈網〉」埼玉県立近代美術館(2005、埼玉)、ギャラリーNWハウス(1997、東京)、水戸芸術館現代美術センタークリテリウム(1997、茨城)など。